

壊滅せす

されどわが刑事たちよ

元・警視監

鈴木達也

山口組



山口組

されどわが刑事たちよ

元・警視監

鈴木達也

壊滅せず

山口組壊滅せず

昭和59年12月20日 第1刷発行 定価1200円

昭和60年3月10日 第9刷発行

著 者 鈴 木 達 也

発 行 者 渋谷 裕 久

浦 上 脩 二

発 行 所 東 都 書 房

東京都文京区音羽2丁目12-21 講談社内

郵便番号 112

電話 東京 (03)945-1111(代表)

発 売 元 講 談 社

東京都文京区音羽2丁目12-21

郵便番号 112

電話 東京 (03)945-1111(代表)

振替 東京 8-3930

印刷所 株式会社廣済堂 製本所 株式会社黒岩大光堂

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部宛にお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

©鈴木達也 1984年 PRINTED IN JAPAN

ISBN4-88668-029-1 (0) (日現)

はじめに

「日本の警察は世界一優秀なのに、このところ、どうかしていますね」
何とも答えようのない思いである。

私は、かつて『山口組壊滅史』という本を作ったが、山口組は壊滅せず、分断されただけである。京都府警の元巡査部長は、明らかにけん銃を強奪し連続射殺事件をしたと思われるのに、完全自供をしない。強奪した凶器のけん銃も現金も発見されず、最高検にまで稟議して、大阪地検がようやく起訴にふみ切った。そして、グリコ・森永事件は、私の予期したとおり長期捜査の様相になってきている。

「これだけ警察が愚弄され、手がかりも多いのに、どうして犯人が検挙できないのですか。これ及早く検挙されないと、大会社のひとつやふたつ潰すことが簡単にできることになりますよ」

これも返答に窮している。

今や刑事警察はこれまでにない危機に直面している。

ひとことと言えば、人も金も組織も治安警備警察に偏重してきたため、こうなつたと断言でき

る。警察も役所のひとつだから、治安維持上の問題が起きれば、それに対処する部門が整備強化されることになる。連合赤軍などの極左過激派が跋扈したので、警備公安部門の機構が増強された。交通戦争といわれるほどに交通事故死が増えたので、交通警察の組織が飛躍的に整備された——その間、刑事警察にはこれといった非常事態がなかったのである。刑事警察の鑑識面は、警備公安事件や交通事件の処理に忙殺されるようになったし、手配共助捜査などの広域捜査では、刑事警察が警備公安事件の捜査に大きく貢献しなければならなくなった。毎年行なわれる指名手配被疑者捜査強化月間では、ある時期から警備公安事件関係被疑者の数が目立って増えてきている。

新東京国際空港反対闘争で、三十八件もの放火爆破事件が起きているのに、まだ一件も検挙解決されていないという。発生した違法事態を鎮圧するのが治安警備の役割だから、ゲリラ犯罪に弱くても仕方ないのかも知れない。刑事警察では自署管内で起きた事件は、自力で検挙解決するのが伝統とされていた。犯罪の広域化に伴い、手配共助捜査つまり広域捜査網が強化されても、この原則は不変であり、管内のことはそこを管轄する警察が全責任を持って検挙解決することとされてきた。ところが、京都のベラムで山口組三代目を狙撃した鳴海清の所在捜査では、この基本原則が大きく崩れてしまっていた。それまで、警察庁や管区できびしくチェックし、指導調整してきたのに、全く効き目がなくなってしまった。これでは広域捜査は成り立たない。自分の非を認めないで他に責任を転嫁する風潮が、刑事警察にも入ってきたのである。

きびしさを避けて易きにつく——元警官広田のように、自分の非を認めず他に責任を転嫁する。

そんな時代に、不眠不休で寝食を忘れてこつこつと地道に心血を注ぐ刑事[・]が[・]いるであろうか。機動力や機械化の時代となった。足でかせぎ、むだの集積といわれる犯罪捜査の伝統を引き継ぐ者がいなくなっても無理はあるまい。

極左暴力集団の反権力闘争の横行は、暴力団や暴走族、それに一般犯罪の手口にも転移している。爆破放火事件や犯行声明をまねる手口が全般的に増加してきた。それらは、刑事警察がこれまで遭遇したことのない事件である。

刑事事件はいつ発生するかわからない。警備公安事件のようにある程度予測ができ、警戒が可能なものではない。刑事は、考えるよりも先に飛び出し駆け回る。私もいつの間にか駆け出しながら考える癖がついてしまった。

マスコミの攻勢も犯罪捜査に大きく影響している。ニュースを追求し、何でも先取りして、時には「三浦事件」のような暴走さえみられるようになってきた。犯罪のスピード化に伴い捜査もスピード化しているが、とうていマスコミのスピードには及ぶくもない。ひとたび捜査の先取りがされると、「ニセ夜間金庫事件」のように警察の方は動けなくなってしまう。さらに、再審事件の報道は、警察のみならず検察も巻き込んで「司法の危機」を感じさせている。

グリコ・森永事件は、警備公安捜査のやり方で進められている。制服警察官を大量動員して封じ込め追い散らす方向に走っている。「国民を人質にした犯罪」などと評論家のようなことを言ったり、警察庁捜査一課長を近畿管区に常駐させることでは、この犯人は検挙できない。

こうした警察の動きは犯罪捜査とは言えない。私服で辛抱強く物陰に張り込み、犯人が出てき

たところを捕まえる——それが刑事警察なのである。

市民が刑事警察を知ることなく、刑事が市民感情を思いやることがないと痛感したので、私なりの刑事警察の軌跡を書くこととした。その矢先、京阪神の警察で刑事警察の危機を感じさせる事態が続発している。「山口組壊滅史」のまえがきを書いたこの私が、「山口組壊滅せず」と言わざるを得なくなった。刑事警察は、どこへゆく……。

昭和五十九年十一月

鈴木達也

山口組壊滅せず●目次

はじめに 1

第一章 狙撃——田岡一雄山口組組長被弾 17

各紙の一面全体に躍る田岡一雄狙撃事件 19

急速に進む山口組包囲網 20

コソ泥に侵入された組長の病室 21

「田岡を逮捕拘引せよ」 23

県警、検察連統の臨床尋問 25

盗用された田岡の診断書 26

田岡負傷の報告を兵庫県警本部が無視 29

警察の犯人逮捕が先か報復が先か 31

なじみのホステスの証言から鳴海の犯行とわかる 33

「なぜ兵庫県警は動かないのか」 34

メンツ失墜、目の色変わる山口組 36

山口組の故意の情報におどらされる兵庫県警 37

警察網を尻目に襲われる松田会幹部 39

抜き打ちの田岡御殿搜索 40

第二章 山口組壊滅せず——亂死体で見つかった鳴海清 43

制服警官が立ち並んで警戒する愚かしさ 43

警戒網のウラをかく山口組 46

入れ墨師が証言する天女の彫りもの 48

各警察管区の存亡を問われる 50

「鳴海は反山口組の忠誠会へ預けた」 51

犯人藏匿隠避の容疑で忠誠会組員を逮捕 54

無視された兵庫県警一〇番への鳴海情報 55

前代未聞、山口組大阪戦争終結記者会見 56

十年足らずで消えた壊滅の手掛り 57

忠誠会だって広域暴力団ににらまれては… 58

第三章 惨殺——後藤巡查絞殺事件 61

寸秒を争う初動捜査の時間を空費 63

異例の管区局長直々の現場視察 64

第四章 刷新——第一次、第二次刑事警察強化策 85

下着姿の絞殺死体 65

福岡県警は暴力団抗争二・八事件で超多忙だった 67

地域住民と密着した派出所警察官の力 71

山口組もそもそもは川筋もんだった 72

夜桜銀次が射殺された 74

金づるが困りはてて殺害を依頼 75

三百人を超える山口組組員が中洲に集結 77

二月八日夜の一斉捜索で一網打尽 78

重病の山口組幹部が後藤巡查殺害犯人か 80

石井組が後藤巡查のけん銃を試射していた 81

内務省解体の余波をかぶった刑事警察 87

吉展ちゃん事件で大失態、初動捜査の誤り 88

「刑事警察強化」の推進役に転出 89

全国の警察から優秀な人材を集めて実務教育 90

「芸能人、スポーツ関係者などによる事件処理の適正化」 91
最後にボツになったまぼろしの通達文書 95

第五章 I C P O — アムステルダムバラバラ殺人 99

オランダ警察のとんちんかんな照会にムカツ腹 101

さすが練磨の日本の事件記者もてこずる 103

被害者の友人の事故死。誰が現場へ飛ぶ？ 105

国際ゲリラ集団の活発化によってウエートを増す警備局外事課 108

被害者、友人に続いて特派員も急死 109

不手際のダブルプレーに総理大臣賞 110

「こんど、防犯課長になる」とうれしそう 112

寝耳に水だった「防犯課長」内示 113

第六章 漏洩 — 東京大証事件 115

架空会社の手形で大衆投資家の金をかき集める 117

「防犯課の出番」と二課と検察ヘデモンストレーション 119

検察は別の「田中彰治事件」を追っていた 120

水野は前科持ちなのに旅券申請で隠している 121

強制捜査は新聞記者に知られては意味がない 124

毎日だけに「逮捕状」が漏れてしまった 126

社会問題としてキャンペーン 128

「山口衆院議長が結婚式の媒酌人」——の写真がデカデカと 130

東京地検特捜部長からおほめの言葉 131

第七章 腐敗——京阪神土地事件① 133

大阪、兵庫のどちらの河岸に死体が流れつくか 135

山田社長から十万円を受け取った警部補がいた 137

坂をころげ落ちるようにして京阪神土地は倒産 139

二年余も狙いをつけていた捜査二課のベテラン警部 141

政界の黒幕「大谷貴義」の名が： 142

山田社長に「導入屋」を紹介したのは米田という男 145

米田は捜査幹部や検事ともつながりを持っていた 148

検事が兵庫県警内部の腐敗を調べている 150

第八章 黒い霧——京阪神土地事件② 153

大蔵官僚を動かして導入預金に応じさせたのは誰か 155

「地検、県警に一億円」のベタ記事に憤慨 157

大蔵省出身、正示啓次郎代議士がクローズアップ 159

辞めた警部補が十万円を返した相手は米田だった 161

旭川方面本部長が米田を歓待 163

第九章

違反——北九州市長選と福岡県知事選

177

正示代議士が議員会館で受け取った百万円の小切手
ゴルフ場の聞き込みで出てきた警察庁刑事局長の名
警察庁長官の大量降下¹⁶⁷
極秘の事情聴取は名古屋のホテルで行なわれた¹⁶⁸
「よろしく」と大蔵官僚へ言った¹⁷⁰
黒い霧事件の検察御前会議開かれる¹⁷²
「敗軍の将兵を語らず」嫌疑不十分の裁定¹⁷³

公選法の解説書をつくり、全国の警察に配布¹⁷⁹

函館駅構内に忘れられたリストと高級品¹⁸⁰

選挙後一カ月の各警察署の違反摘発コンクール¹⁸²

保革伯仲の激戦のさ中に捜査二課長に就任¹⁸⁴

北九州市長選告示前日の県職婦人部長の逮捕¹⁸⁶

保守系候補と同省出身のため革新側から牽制される¹⁸⁷

保守も革新も偽造証紙を使うという情報¹⁸⁹

革新県政下では選管もまた革新系¹⁹⁰

街中でポリウムいっぱいに聞く自分の名前¹⁹²

どんぶりばちの煮物に酒もわりかんで…¹⁹⁵

第十章

企業恐喝

ニセ夜間金庫事件

207

選挙ブローカーのメモに「K刑事情報代一万円」 196

選挙違反の捜査はピラミッド型のあしから 199

県会議員の供述も変わっていった 200

検挙は損だという空気 202

「陣頭指揮はやめよ」の警察庁長官の声 203

政治がからめば刑事警察は弱体化する 205

スクープの前に捜査上の秘密もなくなる 209

グリコ・森永事件は過激派のやり方をまねた？ 210

「東の三億事件、西のニセ夜間金庫事件」といわれるが… 211

ジュラルミン加工された「ニセ夜間金庫」の出来ぐあい 212

実害なしの事件に一面トップ大報道 214

ほんものの前に置かれた表示板も本職はだし 216

窃盗犯が同房者から誘われたそっくりの仕掛け 217

こそ泥のガセネタにどこの社もふり回され… 219

ベニア板の木目が大丸恐喝事件のものと一致 220

毎日新聞にだけ流した大丸恐喝事件との関連性 221

駐車場に放置された車の中からてぐす付きのベニア板が… 223

読売新聞が追いかけた四人組も結局はシロか 225

電話の声やビデオの公開は公安警察の鎮圧作戦と同じ

227

第十一章 自決——大阪府警とばくゲーム機汚職と杉原正警察大学校長自殺

229

現金がじゃらじゃら出てくるとばく機がある

231

シヤブばけの暴力団員の口からA警部補の名前が：

233

ミイラとりがミイラになる暴力団や風俗営業取締り

234

奈良の片田舎でばっ発した深夜とばく場強盗

235

逃走した大阪ナンバーの車両

237

大阪市内の賭場荒らしはすべて未届け事件

238

つきつぎに消えていく二十八年同期の仲間

240

残された者のやりきれない思い

242

薄くなった頭髮を精巧なカツラで隠して

243

死の直前の同期会にも最後の姿を見せた

244

第十二章 汚染——警察内部の不祥事をどうすべきか

247

不祥事が起こればいつもお詫びと懲戒処分

249

大事の前には必ずきざしがある

251

「ものわかりがいい」上司に甘やかされる部下

252

広田逮捕、本部長辞任で何が残ったか

253

目次

身内の恥を進んで公表する社会があるか	255
幼児のけん銃暴発事故死に刑事責任はあるか	258
山口組に対決すべき警察の「解体作戦」	259
「暴力団対策官」は何の意味がある	260
あとがき	262
著者略歴	265

